

# 地域再生計画

## 1. 地域再生計画の名称

LEDで再光！ 「光のまち阿南」地域ルネッサンス事業

## 2. 地域再生計画の作成主体の名称

徳島県阿南市

## 3. 地域再生計画の区域

阿南市の全域

## 4. 地域再生計画の目標

### 【地域の概要】

阿南市は、四国の最東端に位置し、東は紀伊水道、南は太平洋に臨み、四国山系の東端に連なる山地と那賀川がもたらした沖積平野からなり、総面積は279.39km<sup>2</sup>と広大な市域を有している。古くは城下町として栄えた富岡町周辺には中心市街地が、また臨海部の橘町には副都心的市街地が形成され、平成18年3月には隣接する那賀川町と羽ノ浦町を編入合併したことから、人口約7万8千万人を数え、県都に次ぐ都市として、県南部地域の産業・経済・文化の中心としての責務を担っている。

### 【現状と課題】

阿南市は昭和39年の新産業都市の指定を契機として、辰巳工業団地や大湊工業団地など、四国有数の工業団地を整備することにより、県内外の企業を誘致し第2次産業の振興に努め、県南随一の工業都市として発展するとともに、農林水産業など第一次産業の振興にも邁進してきた。その後、幾多の変遷を経て近年は、青色発光ダイオードの開発で世界的な脚光を浴びた地元企業である日亜化学工業（株）のLED製造部門が好調に業績を伸ばしている。

しかしながら、従来の地場産業として地元雇用に大きな役割を果たしてきた製材や缶詰・縫製業などは産業構造の変化に対応できず元気を失い、かつて活況であった中心市街地の商店街はシャッター通りへと変貌してしまった。

また、京阪神地区の食料供給基地として、高品質の農水産物を産出していた農林水産業の分野でも、就労者の高齢化と担い手不足から、手入れが行き届かず、やがて耕作を放棄するなど、深刻な問題となっている。

加えて、リーマン・ショック以降、円高等の影響もあり、長年地域経済を引っ張ってきた大手製紙企業も人員整理を加速するなど、直近の管内有効求人倍率は0.47倍（平成22年8月）まで落ち込み、地域の雇用情勢は非常に厳しい状態となっており、早急な雇用対策と新たな雇用創出が喫緊の課題である。

## 【目標】

阿南市は、国内最大規模の出力を持つ石炭火力発電所（四国電力㈱と電源開発㈱合わせて280万キロワット）に代表されるように、電力発電量屈指の「まち」であり、また青色発光ダイオードを発明・実用化した日亜化学工業㈱があることから、「エネルギーのまち」すなわち「光のまち」であるといえる。

「光」とは、「観光」の語源にあるように「地域の秀れた特色のあるもの」を指し、第一次産業・第二次産業・第三次産業すべての産業に包括するもので、具体的には本市の代表的な工業製品である「LED」や市場関係者から高い評価を得ている「早場米」「ハウスみかん」「早掘りタケノコ」「鱧」などの農水産物も含め、本市の「特色ある地域資源」全てを意味するものである。

この地域再生計画では、世界の3割以上のシェアを誇るLEDの生産都市として、徳島県が進める「LEDバレイ構想」やLEDの先端技術者の養成を目標とする阿南工業高等専門学校「徳島県南部LED関連技術者養成拠点形成計画」と連携し、LEDの持つ様々な特性を、阿南市の「光」である第一次産業、第二次産業、第三次産業の全てにおいて活かすとともに、一次産品や伝統工芸などに活用することによって、地域産業の再生と新たな展開により雇用の創出を図ることを目標とする。

具体的には

- ① LEDの機能を応用して新しい分野に展開できる人材を養成する。

LEDの持つ様々な機能を応用して、他の分野や異業種との連携により、新たな事業展開をマネジメントし、市場に投入できる人材を養成していく。（阿南工業高等専門学校と連携）

- ② 農業進出（異業種進出）をリードできる人材を育成する。

土木建設業の新たな事業展開として農業に進出し、LEDを活用した新しい技術の登用や産品の加工、製造や販売など、総合的にリードするとともに、他社（他分野）と連携した事業展開をマネジメントできる人材を育成する。（徳島県と連携）

- ④ 全国展開が可能な特産品へのレベルアップを図る。

一次産品を使用した加工商品（特産品）の開発やマーケティング、パッケージデザイン、販路などに対し、専門的指導やアドバイスを受ける機会を設けるとともに既存商品のレベルアップと売り上げの向上を図る。

- ⑤ 接客サービスのレベル向上を図る。

飲食や宿泊業従事者の接客サービスの質の向上を図り、LEDによる光のイベント客や野球観光客へのサービス向上により、観光客の増加を図る。

- ⑥ 地域資源を活かした新しいビジネスを展開できる人材を育成する。

地域資源（一次産品、LED）を活かした新しいビジネスの立ち上げや他業者との連携、新商品の開発を加工から製造、マーケティング及び販売など全体的にマネジメントできる人材を育成する。

⑦観光ガイドを育成する。

LEDを核とした「光のまち」としては、イベントやLED製品、オブジェの常設展示を見に訪れた観光客を対象として、また、野球が盛んな地域性を活かした取り組みである「野球のまち」事業としては、試合の観戦や野球イベント、野球観光ツアーに訪れた観光客を対象として、特産品や名所等の案内ができる観光ガイドを育成する。

⑧高齢者の雇用環境の確立を図る。

平成24年には団塊の世代が65歳に到達し、働く意欲と能力があれば「高齢者まで働ける」雇用機会の確保が求められていることから、高齢者雇用措置の円滑な実施と高齢者の能力と働く場のミスマッチの解消に努める。

※雇用及び創業に関する数値目標

	1年度目	2年度目	3年度目
雇員人数（人）	—	109	115
新規創業数（社）	—	3	3

## 5. 目標を達成するために行う事業

### 5-1 全体の概要

阿南市は、LEDが生まれた「まち」として、市民は格別の思いを持っている。それは今から数年前、まったく何もない状態から全国に先駆けてLEDによるイルミネーションイベントを立ち上げ「光のまち」を創造をしてきた自信でもあり、誇りでもある。

このLEDの強光パワーによって、従来の「地域資源（一次産品）」や「未利用資源（竹）」さらには「伝統工芸（竹人形）」や「地域の魅力（観光）」に照射させ、第一次産業、第二次産業、第三次産業の持つ光（魅力）に輝きを取り戻そうとするのが本計画である。

従来の「地域資源」の代表である一次産業は、収益の減少等により、就労者も少なくなり、TPP（環太平洋連携協定）への加入が現実味を帯びてきていることから、産品の高付加価値化を進め、ブランド力を高めることによって、魅力と利益を高めて、企業の進出や就労者を増やしていかなければならない。

また、竹に代表される「未利用資源」についても、繁殖力が旺盛な竹により、山間部が次々と竹藪化している現実もある反面、資源が豊富で容易に手に入りやすい。

新しい「地域資源」であるLED。それは、「照らす」「飾る」「映える」「防ぐ」「促す」という特性を利用することで、全ての産業で応用することが可能である。しかしながら、専門的な知識の習得やスキルの向上が必要であり、人材も必要となる。

幸いなことに本地域にはLED市場の3割以上を生産する世界的な企業の「力」や、

実践的な研究開発を行う阿南工業高等専門学校の「知」もあり、さらには「LEDバレー構想」に代表される徳島県の「助」があり、LEDに格別の思いを有する「民」の存在がある。本地域が有する「光」を結集し、資源を再光させることにより、地域の持続的な発展と雇用の増加を目指していきたい。

## 5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当無し

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 基本方針に基づく支援措置

#### 【B0902】地域雇用創造推進事業

○実施主体 阿南市地域雇用創造協議会

(構成員) 阿南市、阿南商工会議所、那賀川町商工会、羽ノ浦町商工会、阿南農業協働組合、阿南市水産振興会、富岡商店街協同組合、有識者(阿南信用金庫 理事 佐竹義治、藤崎電機(株) 代表取締役 藤崎 稔、阿南工業高等専門学校 副校長 宮城勢治、徳島県南部総合県民局 局長 江本通彦)

○実施期間 平成23年3月から平成25年3月

○事業内容

(1) 雇用拡大メニュー(事業主を対象)

① LED活用による新たな事業展開支援セミナー

LED活用による新たな製品開発や事業展開に取り組む企業に専門講師を派遣し、新製品の開発やマーケティングなどについて指導し、LED関連企業における新たな雇用機会の創出を目指す。

② 建設業の農業進出セミナー

建設業の農業進出を促進し、LEDを利用した野菜栽培キットの導入や竹の有効活用の促進を図り、新たな雇用の創出を目指す。

③ 特産品ブラッシュアップ相談会

事業対象地域内の一次産品加工業者などを対象とした既存商品の内容や販路、パッケージデザインなどに関する相談会を実施し、既存商品のブラッシ

ュアップによる売上拡大と雇用の創出を目指す。

#### ④サービス向上研修

事業対象地域内の飲食業、宿泊業者、土産物販売店などに専門講師を派遣し、接客マナーやサービス向上を目的とした研修を実施し、LEDのイベント観覧客や野球観光客の増加を図り、雇用機会の創出を目指す。

### (2) 人材育成メニュー（地域求職者を対象）

#### ①活竹人形職人育成塾

竹害に発展しつつある市内の竹の有効活用を図るとともに、「竹人形職人」の後継者の育成と、新たな起業・創業を目指す。さらにはオリジナル竹人形のブランドの確立と販売促進を目指す。

#### ②CB（コミュニティビジネス）創業セミナー

住民が主体となり、地域の特性を活かすとともに、地域の課題をビジネスチャンスに変えるコミュニティビジネスの起業、創業などの知識を習得し、新たな雇用機会の創出を目指すとともに、地域資源を活かした地域活性化に寄与する人材の育成を目指す。

#### ③一次産品高付加価値化セミナー

一次産品を中心とした地域の特産品（素材）の高付加価値化を可能とするとともに、企画・製造から販売までをトータルしてマネジメントできる人材を育成し、新たなビジネスチャンスの拡大による地域産業の活性化を目指す。

#### ④光の観光ガイド育成セミナー

光のまちステーションプラザに常設展示しているLED関連製品やLEDオブジェの案内や阿南市内の観光ガイドを育成し、ステーションプラザでの雇用を目指す。

#### ⑤ITスキルアップ講座

ワード、エクセルの基礎から文書作成、データ活用（3級、2級）の資格取得、さらにはホームページ作成、パワーポイントによるプレゼンテーションなど、ビジネスにおけるパソコンスキルアップを目指す。

### (3) 就職促進メニュー

#### ①就職面接会の開催

当該地域内企業の参加を募り、一般求職を対象とした合同の就職面談会を開催し、求職者の就職支援と企業の人材確保をバックアップする。

#### ②パッケージ事業紹介事業

パッケージ事業で行う事業の内容の詳細を項目別に作成し、ホームページや広報誌で求職者に紹介する。また、UIターン希望者などに当該事業への参画促進のための情報提供を実施する。

## 5-3-2 独自で行う事業

### 1. 連携予定の基本方針に基づく支援措置

【B0801】科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」プログラム  
「徳島県南のLED関連技術者養成拠点の形成」

- 実施主体 阿南工業高等専門学校
- 実施年度 平成19年7月～平成24年3月
- 事業内容 徳島県や阿南市との連携のもと、阿南工業高等専門学校を拠点として、LEDの基礎及び応用技術を習得する講座を実施し、LED関連製品の設計や製作能力を備えた技術者を養成することで、企業や起業家の新規事業に必要な人材を供給し、経済活性化と雇用創出を図る。

### 2. 地域再生基本方針に基づく支援措置によらない取組

#### ①【阿南光のまちづくり事業】の展開

中心市街地の活性化等を図るために、地元企業が開発した産業資源の有効を有効に活用し地域の社会資本にLEDイルミネーションを行うとともに、ハード・ソフト様々なイベントを地域住民と協働して実施し「元気で・明るく・誇りある」まちづくりを目指す事業を実施するものである。

#### ②【光のまちステーションプラザ運営委託事業】

「光のまち阿南」の観光・物産等の情報発信基地として、さらにはLED企業の新商品発表の場、また気軽にLEDや竹を使った体験工房ができる施設として、連携して運営して行く事業を実施するものである。

#### ③【基板開発等委託事業】

常設に耐えうるLED基板の開発や斬新なLEDオブジェの創作を阿南工業高等専門学校に委託する事業を実施するものである。

#### ④【インキュベーションセンターの開設】

市が阿南工業高等専門学校の内に整備した施設をLED関連製品や竹を利用した繊維開発や糖の精製等を研究するベンチャー企業に貸し出し、産学連携を支援するものである。

#### ⑤【活竹祭の開催】

本市の産業振興特に農林水産物（竹・筍など）中心の新規特産品の開発・発見の場として又観光資源の一つとして、地元企業を中心として地場産品を住民の方々に披露するための事業を実施するものである。

⑥【観光地域づくり実践プラン】

「地域の光・人の光・未来の光を見いだす観光地づくり」をテーマに地域資源を最大限に活用しながら、地域の幅広い関係者が一体となって観光地づくりを推進するものである。

**6. 計画期間**

認定の日から～平成25年3月末まで

**7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

地域再生計画の目標については、計画終了後（各年度ごと）に、事業実施主体である阿南市雇用創造推進協議会において、事業を実施した企業数、求職者数、起業した法人数、新規の雇用人数を検証し、また研修参加者及び利用者のアンケート調査により目標達成度状況について把握・評価を行い、事業実施の効率化などについて見直しの上必要があれば改善を行う。

**8. 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項**

該当無し